

## 第3章 コアエリアの現状と課題

第3章では、コアエリアの現状と課題の整理を行う。

### 3-1 車両・歩行者動線

#### (1) 車両動線

コアエリアに進入する車両動線は、浅間大社境内地南側(小型車・バス)および西側(小型車)と富士山せせらぎ広場(小型車・バス)の3か所に集約される。

浅間大社内の駐車場は、利便性から重要な位置付けとなり、来訪者の安全性を確保するため、段階的廃止または歩車分離し代替機能を他に整備する必要があると考える。

他に、商店街等の民間駐車場は分散して立地しているが、基本的に店舗専用でかつ1か所当たりの駐車台数が少なく、分かりにくい位置にもあることから、一般の観光客等が利用することは困難な状況にある。

#### (2) 歩行者動線

歩行者動線のメインとなるものは、JR富士宮駅、JR西富士宮駅から商店街を渡って歩くルート2本と、コアエリア南側の大型商業施設から北へ向かって歩くルートの計3本であり、メインルートは歩道が整備されている。

コアエリア内の歩道は、富士山せせらぎ広場南側の県道歩道(南神田橋付近)、花と食の元気広場西側の県道歩道、富士山せせらぎ広場から浅間大社に至る市道、市営駐車場予定地から世界遺産センター建設予定地までの歩行者ルート等、未整備箇所が点在しているため、歩行者動線の整備が必要と考える。

また、イベント時に利用されている城山公園から浅間大社への歩道についても整備が必要と考える。

#### (3) 案内サイン等

車両ルート、歩行者ルートともに案内サイン・標識等が不足しており、初めての来訪者にとってコアエリアへは、不案内な状況となっている。

デザインの統一と外国語表示が併記された案内サイン(標識)の設置が必要と考える。

現況車両・歩行者動線図

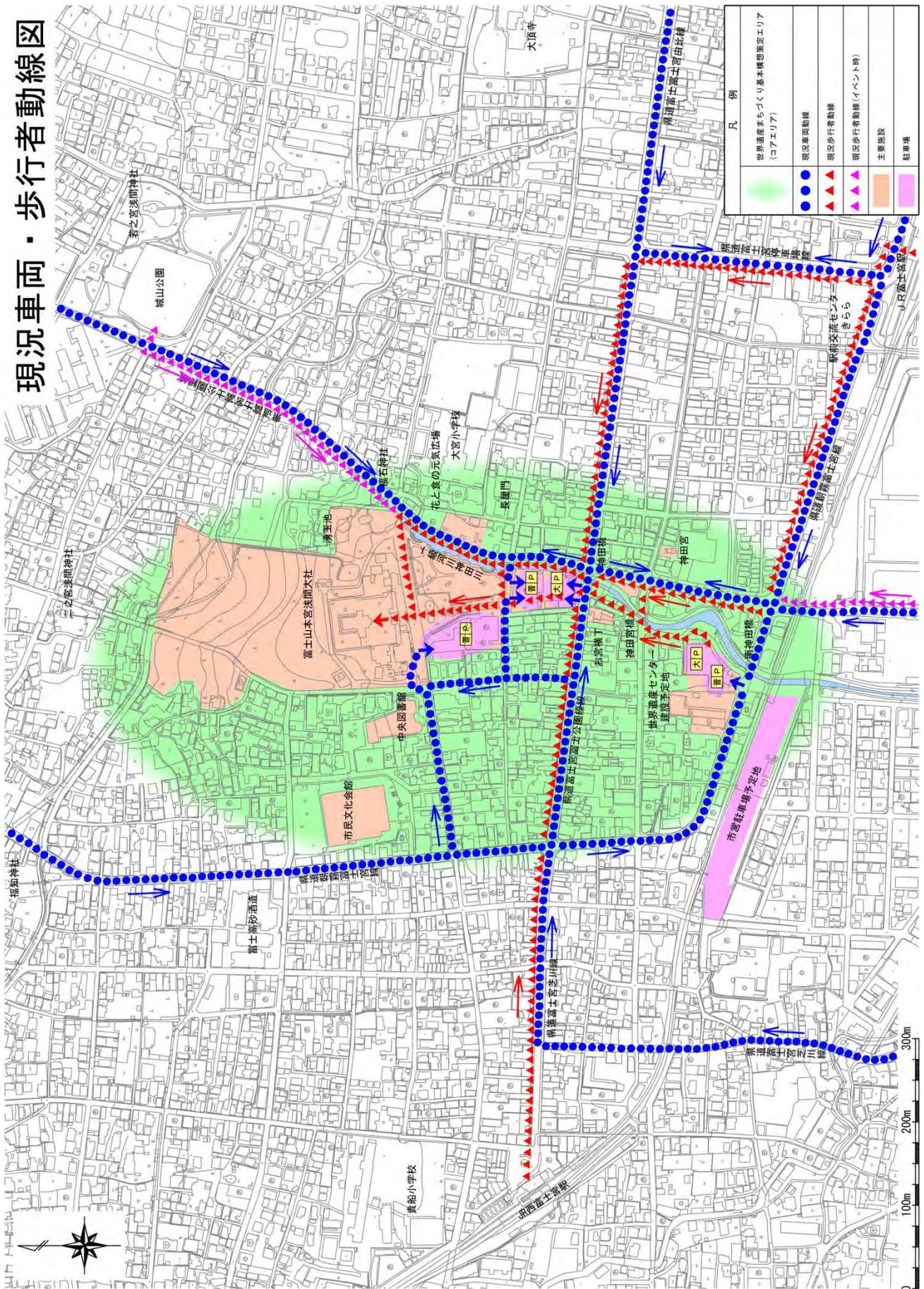


図 3-1 現況車両・歩行者動線図

### 3-2 環境・景観(水と緑)

#### (1) 良好な富士山眺望の確保に向けた景観誘導

コアエリアから北北東に向かって富士山が眺望できるが、一部の建物等が眺望を阻害している。富士山の眺望をいつまでも良好な状態で保つためには、高さ制限や色彩のコントロール、無電柱化の取組が必要と考える。

#### (2) 神田川環境整備の未整備区間

一級河川神田川も神田橋から神田宮橋区間において、環境整備が完了していない。

また、浅間大社内の神田川ふれあい広場東側の神田川の親水護岸についても、老朽化が目立つようになり、親水護岸の一部再整備が必要と考える。

#### (3) まちの中の水と緑

全体的に緑地や樹木が少なく、門前町にふさわしい緑化が求められている。また、豊富で清らかな湧水が流れる側溝や坪庭等の水と親しめる施設の整備が必要と考える。

### 3-3 民活・店舗・施設

#### (1) 商店街の修景改善、空き店舗等の活用

商店街に老朽化した建物・アーケード、休日でもシャッターが閉まった空き店舗等が存在する。この現象は、コアエリア内だけでなく周辺の商店街に多く見られ、商店街における修景改善と空き店舗の活用が必要と考える。

#### (2) 宿泊施設の不足(整備)

コアエリア内の既存宿泊施設は2軒、周辺を含めて11軒の宿泊施設が存在する。今後の来訪者の増加状況にもよるが、施設数の充実と魅力ある施設整備が必要と考える。

#### (3) 拠点施設の未整備

コアエリア内には浅間大社と世界遺産センターの大きな「核」が2つ存在する。エリア内においてそれらに回遊性をもたせ、動線をまちなかのにぎわいに生かす拠点の整備が必要と考える。

また、富士山の顕著な普遍的価値をより理解してもらううえで、富士山信仰と聖地、巡礼地と郷土の歴史・生活文化のかかわりを展示する施設も視野に入れた検討が必要と考える。

#### (4) 観光客向けの土産販売店、飲食店の不足

当エリアは元来富士宮市の一大観光スポットであるが、滞在時間が短く、通過型観光地であるため、観光客向けの店舗、飲食店(団体客用・個人客用)が不足している。

また、店舗の立地位置、規模、販売内容等について、議論が必要と考える。

(5) 夜間、人が集まる拠点の不足

当エリアだけでなく富士宮市全体にいえることであるが、夜間人が集まる魅力ある交流スポットが存在しないため、滞在型の来訪エリアを促進するとともに、民間資本を活用したにぎわいのある夜間交流拠点の整備が必要と考える。

(6) 観光客へのおもてなしの不足

日本全国及び海外から多くの来訪者が当市を訪れることが予想されるが、その状況に対応できていないため、体制の構築が必要と考える。

### 3-4 浅間大社

(1) 境内地への車両乗り入れ

神聖な境内地内の駐車場の設置は避けるべきであり、廃止し代替機能を他に整備する必要があると考える。

(2) 参道の整備

第2の鳥居前を大型バス駐車場として利用しているが、景観及び歩行者動線などの安全性や景観を考慮すると、参道としての整備が必要と考える。

(3) 神田川ふれあい広場

神田川ふれあい広場は市民の憩いの広場として整備してから20年以上が経過し、施設の老朽化が進んでおり、機能・景観等を考慮した再整備の検討が必要と考える。

(4) 浅間大社北側境内地(社叢)の保存

浅間大社北側の社叢は、「富士宮市自然環境の保全及び育成に関する条例」に規定する「保存樹林」に指定されており、都市計画法の風致地区にも指定されているため、今後も、鎮守の森としての保存管理が必要と考える。

(5) 湧玉池の保全

国の特別天然記念物に指定されている湧玉池の浚渫、景観の保全が必要と考える。

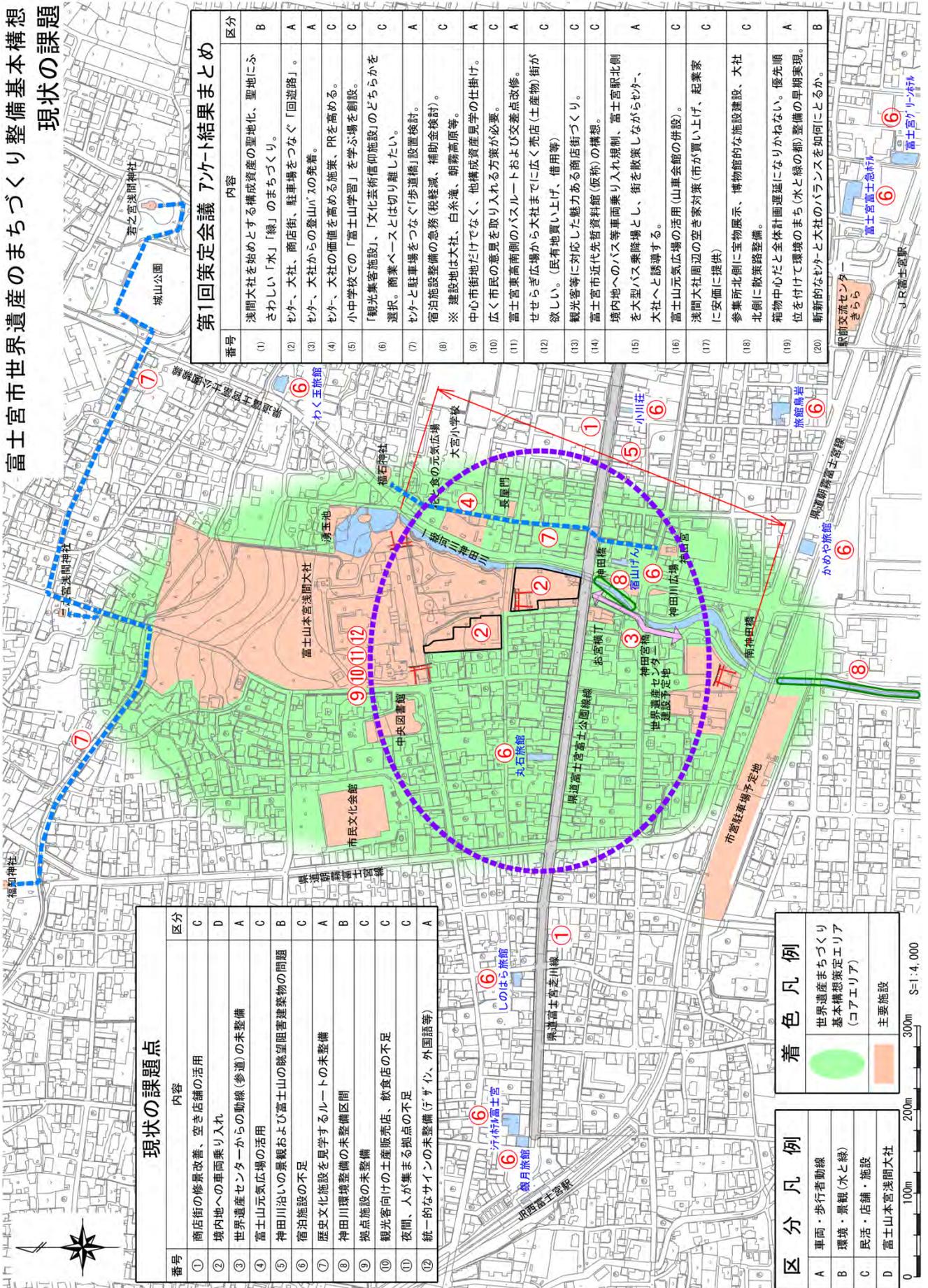
(6) 浅間大社境内地の植栽の保全管理

浅間大社には、境内地を囲むように数多くの桜を始めとする様々な樹木が植栽されており、その保存管理が必要と考える。

(7) 富士山登山口としての浅間大社の再生

元来富士登山は、富士山周辺の各浅間神社を登山口とし、安全祈願、禊など行い山頂を目指した。富士登山の前に浅間大社に参拝する本来のあり方を復活させることが富士山信仰の聖地の再生につながるものであり、その検討が必要と考える。

富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想  
現状の課題



現状の課題点	
番号	内容
①	商店街の修景改善、空き店舗の活用
②	境内地への車両乗り入れ
③	世界遺産センターからの動線(参道)の未整備
④	富士山元氣広場の活用
⑤	神田川沿いの景観および富士山の眺望阻害建築物の問題
⑥	宿泊施設の不足
⑦	歴史文化施設を見守るルートの未整備
⑧	神田川環境整備の未整備区間
⑨	拠点施設の未整備
⑩	観光客向けの土産販売店、飲食店の不足
⑪	夜間、人が集まる拠点の不足
⑫	統一的なサインの未整備(バイサイン、外国語等)

第1回策定会議アンケート結果まとめ		
番号	内容	区分
(1)	浅間大社を始めとする構成資産の聖地化、聖地にふさわしい「水」「緑」のまちづくり。	B
(2)	むか、大社、商店街、駐車場をつなぐ「回遊路」。	A
(3)	むか、大社からの登山パスの発着。	A
(4)	むか、大社の価値を高める施策、PRを高める。	C
(5)	小中学校での「富士山学習」を学ぶ場を創設。	C
(6)	「観光集客施設」、「文化芸術(信仰施設)のどちらかを優先。商業ベースとは切り離したい。	C
(7)	むかと駐車場をつなぐ「歩道橋」設置検討。	A
(8)	宿泊施設整備の急務(税軽減、補助金検討)。 ※ 建設地は大社、白糸滝、朝霧高原等。	C
(9)	中心市街地だけでなく、他構成資産見学の仕掛け。	A
(10)	広く市民の意見を取り入れる方策が必要。	C
(11)	富士宮東高南側のバスルートおよび交差点改修。	A
(12)	せせらぎ広場から大社までに広く売店(土産物)街が欲しい。(民有地買い上げ、借用等)	C
(13)	観光客等に対応した魅力ある商店街づくり。	C
(14)	富士宮市近代先哲資料館(仮称)の構想。	C
(15)	境内地へのバス等車両乗り入れ規制、富士宮駅北側を大型バス乗降場とし、街を散策しながらむか、大社へと誘導する。	A
(16)	富士山元氣広場の活用(山車会館の併設)。	C
(17)	浅間大社周辺の空き家対策(市が買い上げ、起業者に安価に提供)	C
(18)	参集所北側に宝物展示、博物館的な施設建設、大社北側に散策路整備。	C
(19)	箱物中心だと全体計画遅延になりかねない。優先順位を付けて環境のまち(水と緑の都)整備の早期実現。	A
(20)	斬新的なむかと大社のバランスを如何にとるか。	B

区分凡例	
A	車両・歩行者動線
B	環境・景観(水と緑)
C	民活・店舗・施設
D	富士山本宮浅間大社

着色凡例	
	世界遺産まちづくり基本構想策定エリア(コアエリア)
	主要施設

図3-2 現状の課題

### 3-5 アンケートにおける現状

富士宮市では平成24年6月に「中心市街地のまちづくりに関するアンケート」を実施しており、コアエリアに関連するアンケート結果について抜粋記載する。

#### ●中心市街地のまちづくりに関するアンケート調査概要(市民)

- (1) 目的：中心市街地まちづくり計画の策定にあたり、中心市街地に求められている市民ニーズを把握する。
- (2) 調査方法：市内在住の20歳以上の人から無作為抽出した1,400人を対象に郵送（発送・回収とも）による調査 ※平成24年4月1日現在、人口の約1%
- (3) 調査内容：調査票にて記入
- (4) 調査期間：（発送日）平成24年5月2日、（回収締切日）平成24年5月16日
- (5) 回収結果：送付数1,400件、回収数603件（43.1%）
- (6) 以下調査結果抜粋

#### 問9 魅力ある中心市街地には何が必要だと思いますか（3つ以内）

回答数 = 1,536

必要な施設など	回答数	割合
公園、水辺等の休憩施設	219	14.3%
飲食、喫茶店（ファミレス、ケーキ等）	180	11.7%
娯楽施設（映画館、カラオケ等）	135	8.8%
歴史館、物産館などの集客施設	108	7.0%
コンビニ・スーパー等の小売店	106	6.9%
専門小売店（パソコン・ブランド品等）	105	6.8%
文化ホールなど市民が利用できる交流施設	105	6.8%
野菜の販売所	100	6.5%
その他	84	5.5%
居酒屋等の夜のにぎわい場所	78	5.1%
ホテルなどの宿泊施設	78	5.1%
ファーストフード等の持ち帰り飲食店	70	4.6%
医療施設	66	4.3%
マンション・高齢者住宅などの居住施設	43	2.8%
買物等をする時に預けられる託児施設	30	2.0%
福祉施設専門店	29	1.9%
合計	1,536	100%

**問12** 中心市街地に観光客を増やすには、どのようなまちになることが必要と  
 思いますか。(3つ以内)

回答数 = 1,705

まちに必要なこと	回答数	割合
大型駐車場が整備されている	250	14.7%
公共交通機関が充実している	202	11.8%
魅力ある個店、専門店が多くある	184	10.8%
まちなかを歩いて楽しい	171	10.0%
イベントが活発に行われている	126	7.4%
浅間大社を活かしている	85	5.0%
歴史館・物産館など集客施設がある	83	4.9%
ホテルなど宿泊施設が充実している	81	4.8%
気楽に出入りできる商店がある	61	3.6%
飲食が楽しめる	58	3.4%
大型ショッピングセンターがある	55	3.2%
駅前が整備されている	54	3.2%
観光ボランティアが充実している	48	2.8%
まちなみ景観が統一している	48	2.8%
豊富な湧水を活かしている	47	2.8%
若い人が集まる	42	2.5%
高齢者にやさしい	40	2.3%
美術館などの文化施設がある	30	1.8%
居酒屋等の夜のにぎわいのある	21	1.2%
その他	19	1.1%
合計	1,705	100%

**問11** あなたが市外からのお客さんを案内する市内の場所はどこですか。  
 (3つ以内)

回答数 = 1,640

案内場所	回答数	割合
浅間大社	400	24.4%
白糸の滝	290	17.7%
富士山	242	14.8%
朝霧高原	225	13.7%
やきそば店	181	11.0%
田貫湖	174	10.6%
入浴施設	45	2.7%
その他	33	2.0%
寺社仏閣	16	1.0%
酒蔵	12	0.7%
西山本門寺	9	0.5%
山宮浅間神社	6	0.4%
村山浅間神社	6	0.4%
人穴浅間神社	1	0.1%
合計	1,640	100%

●中心市街地のまちづくりに関するアンケート調査概要(観光客)

- (1) 目的：中心市街地(浅間大社)を訪れる観光客のニーズを把握するため。
- (2) 調査方法：中心市街地(浅間大社)を訪れる観光客を対象に聞き取り調査を実施した。
- (3) 調査場所：観光案内所「寄って宮」周辺  
一般社団法人 富士宮市地域力再生総合研究機構 「おーそれ宮」店舗内
- (4) 調査期間：平成24年5月2日から平成24年5月31日まで
- (5) 調査件数：432件(「寄って宮」397件・「おーそれ宮」35件)
- (6) 以下調査結果抜粋

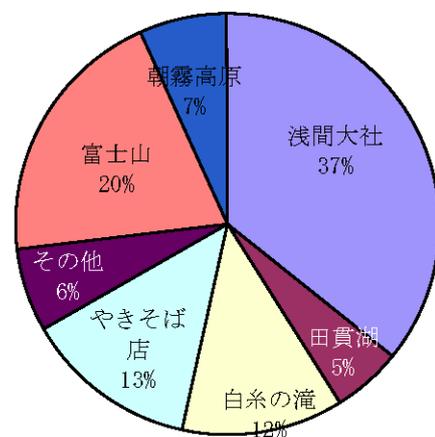
問5 富士宮市のまちなかのイメージを教えてください。

イメージ	ポイント
1. 富士山のあるまち	228
2. 浅間大社などの歴史を感じる	217
3. 湧水が豊富にある	119
4. やきそば店など活気がある	145
5. まちなかが寂しい	19
6. その他	12
計	740

その他の意見では「ステキな町」、「昔はもっとにぎやかだった気がする」、「駐車場が少ない」、「町がきれいになった」、「町が静かです」などの意見があった。

問6 富士宮市に来た目的の場所を教えてください。

目的の場所	ポイント
1. 富士山	142
2. 朝霧高原	47
3. 浅間大社	251
4. 田貫湖	37
5. 白糸の滝	85
6. やきそば店	94
7. その他	44
計	700



やきそば店が白糸の滝、朝霧高原、田貫湖などの観光地を抑えて富士山、浅間大社に次ぐ3番目にポイントを取っている。

問7 まちなかで浅間大社以外に知っている場所はありますか。

知っている場所	ポイント
1. 湧玉池	149
2. お宮横丁	95
3. 高砂酒造	24
4. 郷土資料館	14
5. イオンモール	35
6. なし	121
7. その他	11

湧玉池、なし、お宮横丁の順にポイントを取っていることから浅間大社周辺の観光に留まっていることが伺える。

問8 市内の観光地はどこを知っていますか。

知っている観光地	ポイント
1. 富士山	336
2. 朝霧高原	215
3. 浅間大社	291
4. 田貫湖	128
5. 白糸の滝	280
6. その他	10
計	1260

その他の観光地では盲導犬センター、大石寺、本門寺があった。

問9 浅間大社以外に立寄った(立寄る)観光施設があったら教えてください。

立寄った(立寄る)観光施設	ポイント
1. 白糸の滝	176
2. 道の駅朝霧高原	93
3. 朝霧フードパーク	18
4. 休暇村富士	39
5. 富士花鳥園	28
6. まかいの牧場	41
7. 富士山5合目	73
8. ミルクランド	27
9. やきそば店	121
10. パワースポット	8
11. どこも寄らない	15
12. その他	22

その他の立ち寄る観光施設では富士ハーネス、朝霧高原、山登りなどがあり、新東名開通によるサービスエリアなどもあった。

問10 市内の滞在時間はどのくらいですか

市内滞在時間	N=391	
	人	割合
1. 1時間程度	96	22%
2. 2時間程度	139	32%
3. 3時間程度	48	11%
4. 4時間程度	26	6%
5. 半日以上	52	12%
6. 1泊	24	6%
2泊以上	6	1%
未回答	41	
	432	

2時間程度が最も多く、未回答を除く全体の65%の方が3時間程度の滞在時間であることが分かる。

1泊以上していく観光客は全体の7%でした。

問12 今回の旅行の日程を教えてください。

N=392		
日程	人	割合
1. 日帰り	162	41%
2. 1泊2日	148	38%
3. 2泊3日	56	14%
4. 3泊以上	25	6%
未定	1	0%
未回答	40	

問13 問12で1以外を回答した方はお答え下さい。宿泊地を教えてください。

N=78	
宿泊地	人
富士宮市内（市街地）	8
富士宮市内（郊外）	4
富士宮市内（井の頭、田貫湖方面）	6
計	18
伊豆方面	12
静岡（三保）	4
富士五湖方面	10

問14 富士宮市に来たのは何回目ですか。

N=334		
回数	人	割合
1. はじめて	172	51%
2. 数年に1回	66	20%
3. 年に1~2回	50	15%
4. 年3~4回	24	7%
5. 年5回以上	22	7%
未回答	98	

回答をいただいた方の半数以上が富士宮市にはじめて訪れた方であったが、逆に見れば49%がリピータでありリピーター率は高いと言える。

● 考察

「市民に向けた」中心市街地のまちづくりに関するアンケートの結果は以下の通りとなった。

- ・ 中心市街地に必要な施設の上位三傑は、  
①公園、水辺等の休憩施設    ②飲食、喫茶店    ③娯楽施設
- ・ まちに必要なことの上位三傑は、  
①大型駐車場の整備    ②公共交通機関の充実    ③多くの魅力ある個店、専門店
- ・ 市内案内場所の上位三傑は、  
①浅間大社    ②白糸の滝    ③富士山

以上から、市民がふれあいのある交流施設を求め、交通体系の整備を望み、富士宮市で誇れるものは「世界文化遺産関連施設」であることが推察される。

「観光客に向けた」中心市街地のまちづくりに関するアンケートの結果は以下の通りとなった。

- ・ 富士宮市のまちなかのイメージの上位三傑は、  
①富士山のあるまち    ②浅間大社などの歴史を感じる    ③やきそば店など活気がある
- ・ 富士宮市に来た目的の場所の上位三傑は、  
①浅間大社    ②富士山    ③やきそば店
- ・ まちなかで浅間大社以外に知っている場所は  
①湧玉池    ②なし    ③お宮横丁
- ・ 市内の観光地はどこを知っているかの上位三傑は、  
①富士山    ②浅間大社    ③白糸の滝
- ・ 浅間大社以外に立ち寄った観光施設の上位三傑は、  
①白糸の滝    ②やきそば店    ③道の駅朝霧高原
- ・ 市内の滞在時間の上位三傑は、  
①2時間程度    ②1時間程度    ③半日以上
- ・ 今回の旅行の日程の上位三傑は、  
①日帰り    ②1泊2日    ③2泊3日
- ・ 宿泊地の上位三傑は、  
①伊豆方面    ②富士五湖方面    ③富士宮市街

- ・富士宮市に来たのは何回目かの上位三傑は、  
①はじめて ②数年に1回 ③年に1～2回

以上から、富士宮市の観光施設としては「富士山」「浅間大社」「やきそば店」が特に有名であり、宿泊は市外、滞在時間も短い「通過型観光地」とであると考察される。

## 3-6 世界遺産登録後の観光客入り込み状況

富士宮市の平成25年度の入り込み状況は、625万人（前年度比5パーセント増）だった。富士山世界遺産登録の影響もあり、600万人を超えたのは平成20年度以来5年ぶりとなった。

観光客数が最も多かったのは、朝霧高原の208万人（同3パーセント増）で、富士山の景観やキャンプなどのアウトドアを楽しむ観光客で賑わった。

また構成資産の浅間大社周辺は161万人（同7パーセント）、白糸ノ滝は43万人（同23パーセント）といずれも前年度を上回った。特に白糸ノ滝はここ数年減少傾向にあったが、滝つぼ整備工事の完了を受け大幅に回復している。

一方、芝川地区は、3万3千人で26パーセントの減となった。

名称	観光客数	前年比率	摘要
田貫湖	26万5471人	98.56%	
朝霧高原	208万4217人	103.38%	
白糸ノ滝	43万7635人	123.66%	
浅間大社	161万9000人	106.99%	
富士山周辺	29万7100人	114.05%	
芝川地区	3万3410人	74.32%	
産業観光	3万7657人	88.48%	
やきそば店	30万2000人	111.85%	
富士登山	8万538人	103.58%	富士宮口6合目カウンターで算出

表3-1 2013年度 富士宮市観光客入込状況(抜粋)